

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

イ

男子 ・ 女子 ・ 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
水海道第二高等学校	33	17 16 — — — 7mTC	9 14 — — —	城北高等学校
			23	

選抜大会 3 回戦第 1 試合は第 1 シード水海道第二高校と城北高校との対戦。両チームは関東地区、九州地区で優勝した好カード。城北スローオフで試合開始。水海道 11 番（山岸）サイドシュートで先制。両チームとも攻守の切り替えが速い展開となった。前半 10 分過ぎには 6 対 3 で水海道 3 点のリード。城北は 5 番（亀川）のミドルを中心に得点を重ねるが、水海道は 5 番（瀧川）のポストプレー 11 番（山岸）のサイドプレーや速攻などで得点をかさねる。前半 21 分過ぎには 14 対 6 で水海道リードを広げる。城北はダブルポストで、パスをつなげようとするが、水海道の堅い DF と GK12 番（宝田）の好セーブで得点が入らない。速攻を中心に攻めた水海道が 8 点のリードを広げ、17 対 9 で前半を終えた。後半、城北は 11 番（佐々木）のポストプレーで得点をかさねるが、水海道も多彩な攻撃で得点を重ねる。開始 10 分過ぎには 23 対 13 となり、さらに水海道リードを広げる。水海道 2 番（田沼）も得点を重ね、開始 20 分過ぎには 29 対 16 となった。一方、城北も 5 番（亀川）、11 番（佐々木）を中心に得点をかさねるが、水海道は最後全選手を出場させる。33 対 23 で試合終了。

2017 年 3 月 26 日

記載者氏名 中野 健

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

ロ

男子 ・ 女子 ・ 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名										チーム名									

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男イ

男子 ・ 女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名			チーム名			
総得点			総得点			
岩国工業高校	31	17	—	14	27	
		14	—	13		
		—				
		—				
		—				
			7mTC			

大会3日目の第1試合、昨日地元兵庫の神戸国際大附属に勝利した前回大会優勝校岩国工業と1回戦

小松工業に勝利した関東代表駿台甲府との対戦。駿台甲府のスローオフで試合開始。試合開始直後、駿

台甲府11番のシュートで先制。岩国工は6番のポストシュートで同点とする。前半序盤は駿台甲府 GK

の好セーブで互角の展開となる。13分すぎ、岩国工は速攻などで3連続得点を上げ、逆転に成功する。

駿台甲府は9番の積極的な1対1などから得点を重ね食い下がるが、前半は17-14で岩国工がリー

ドで折り返す。

後半は岩国工6番のシュートでスタート。駿台甲府は3-2-1DF、岩国工3番へのマンツーマンDF

で岩国工の攻撃のリズムを崩す。それに対して岩国工は両2枚目が牽制を仕掛け、駿台甲府のパスワー

クを乱す。駿台甲府は9番、11番を中心に攻撃を仕掛け、20分54秒に同点に追いつく。再び2点差

をつけられた駿台甲府がタイムアウト。両チームとも粘り強いDF、素早いOFで見応えのある好ゲーム

であったが、岩国工が31-27で勝利し、準々決勝へ駒を進めた。

29年 3月 26日

記載者氏名 妻木 啓晃

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男ホ

男子 ・ 女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館

チーム名

総得点

洛 北

32

19 ー 5
13 ー 15
ー
ー
ー
7mTC

総得点

20

チーム名

明 星

2回戦を接戦の末、苦しみながらも勝ち抜いたチーム同士の準々決勝をかけた一戦。スローオフは

明星。洛北 DF の前へのプレッシャーに明星 OF は人とボールを動かして突破口を開こうとするが、果

敢に出てくる洛北 DF のパスカットによって攻撃の糸口が見えない。一方の洛北は、No.3 井上の 1 人速

攻で先制後、連続 3 得点。明星はNo.3 高橋のミドルで応戦するも、洛北No.2 左腕林のスピード溢れる個

人技、ロングによる 3 連続得点によって洛北ペースで序盤が展開された。洛北 DF の前へのプレッシャ

ーに明星 OF のパスが続かず、パスカットによる洛北の速攻が続く。洛北の速攻のスピード、林のロン

グ、林を起点にしたポストパス、No.4 木田の巧みなポストの動きより明星 DF を翻弄。前半はゲーム

を終始支配した洛北ペースで終えた。

後半に入っても洛北の DF からの攻撃の手は緩まない。DF ラインを上げてパスミスを誘発し、パス

カットからのスピードある速攻で点差を広げる。洛北メンバーチェンジ後の 17 分以降、両サイドNo.4

藤井、No.5 櫻井のシュートを主にNo.3 高橋の個人技など最後まで諦めない姿勢で 12 点をあげたが、洛

北が攻守にわたってゲームを制し、準々決勝に駒を進めた。

29 年 3 月 26 日

記載者氏名 沖野 勝洋